

「DIY感覚で楽しめた」コアコンセプト・テクノロジーが ダッシュボードをスピード構築できた秘訣

株式会社コアコンセプト・テクノロジー



株式会社コアコンセプト・テクノロジー
社長室 コンサルタント 久保 朋之 氏

楽しみながらダッシュボードを 構築し、データドリブンな 営業組織づくりを実現

顧客のデジタルトランスフォーメーション（DX）を支援するコアコンセプト・テクノロジー社では営業活動の効率化を図るために、Salesforce導入を機に、MotionBoard Cloud for Salesforce（以下、MotionBoard）とVyNDEXを導入した。プロジェクトを一手に担った担当者は、「DIY感覚でダッシュボード構築にハマって楽しめた」とまで語った。今後は、営業活動の可視化によるPDCAサイクルの加速、また様々な可視化データより新たな付加価値の創出を目指していく。

Summary

概要



背景・課題

- ・さらなる事業成長のために営業手法の効率化やデータドリブンな組織作りが必要となっていた
- ・営業活動のPDCAサイクルを回すためのデータ可視化を行いたかった
- ・個人ごとのExcel運用だった案件管理をシステム化したかった



導入のポイント

- ・MotionBoardが、自社がBIに求める機能を全て兼ね備えていながら安価だったこと
- ・VyNDEXを利用すればExcel UIでSalesforceのデータを更新できること



効果

- ・MotionBoardで売上実績をリアルタイムに可視化できるようになり、データドリブンな意思決定が可能になった
- ・個人ごとの実績も可視化されたことで営業メンバー同士のコミュニケーションが活発になった
- ・初めてのITツールでも簡単に使いこなせ、データの集計が楽になった

導入製品・サービス

MotionBoard Cloud for Salesforce

Salesforceをはじめ、さまざまなデータを統合・分析し、リアルタイムで可視化するBIダッシュボード

VyNDEX

Salesforce上のデータをExcel UIで参照・追加・編集できるサービス



MOTIONBOARD

CASE STUDY

DIY感覚で楽しめた ダッシュボード構築から、 スムーズな営業現場への浸透

株式会社コアコンセプト・テクノロジー（以下、CCT）では、2009年に立ち上げたIT人材調達支援事業を担うエンジニアリングプラットフォーム事業本部が成熟期に差し掛かったことを受け、営業マネジメントを統一すべく、MotionBoardとVyNDEXを導入した。

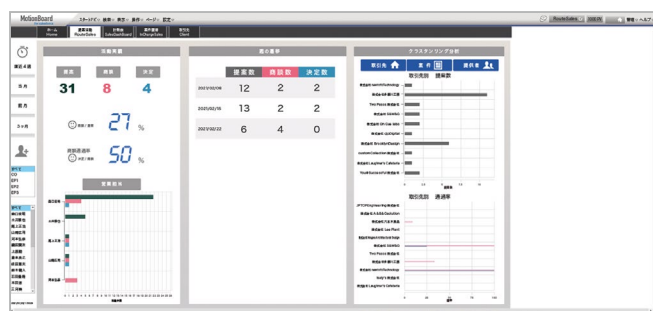
今回の導入プロジェクトをすべて1人で遂行していた久保朋之氏は、MotionBoardの導入後、わずか3ヶ月という短期間で自社のダッシュボードを構築した。久保氏は導入当時を振り返り、「他社事例などを参考にしたり、周りの人に自慢げに見せたりしながら、ダッシュボードをブラッシュアップしてい



きました。どんどん作り込んでいくうちに、気づけばDIY感覚でハマっていましたね」と笑顔を見せた。このように短期間で改良を重ねられたのは、エンジニアが3日～1週間かけてコーディングするようなものを、MotionBoardならノーコードで30秒～数分あれば作成できてしまう手軽さがあったからだという。こうして営業活動の進捗をリアルタイムに把握できる2種類のダッシュボードを構築した久保氏。次に目指すのは、データに基づいた意思決定を行い、次にとるべき行動を戦略的に見出すことだ。そこに

辿り着くには、営業担当者が恒常的にSalesforceへ案件情報を入力することが不可欠だが、CCTではMotionBoardと同時にVyNDEXも導入していたことで、営業担当者は従来Excelで行っていた案件管理のやり方を大幅に変えることなく、自然にデータ入力が続けられているという。

顧客のDXを支える同社では、今回のプロジェクトで得た知見も活かしながら、さらなる事業拡大に挑んでいく。



営業KPIを可視化する 「提案活動」ボード

営業実績の現状を誰もがひと目で把握できるようにすることで、自ら気づきを得られる環境を整えた

担当者ごとの実績も可視化する 「計数表」ボード

これまで共有されていなかった個人の営業パフォーマンスを可視化したことで、営業活動に関するメンバー同士の情報交換が活発になった



※本画面ではサンプルデータを利用しております。



株式会社コアコンセプト・テクノロジー

設立 : 2009年
本社所在地 : 東京都豊島区
URL : <https://www.cct-inc.co.jp/>

2019年に創業10年を迎えたIT企業。経営課題・現場課題を独自のフレームワークで解決する「システム開発」、従来不可能だった領域まで数値化を可能にする「解析・シミュレーション」、製造現場のIoT/AI活用を実現する「Orizuru」、圧倒的な人材調達力とスピードを誇る「システムエンジニアリングサービス」という4つのサービスを通じ、顧客のデジタルトランスフォーメーションを支援している。

サイト内でより詳しく
ご紹介しております。

[https://www.wingarc.com/
product/usecase/222.html](https://www.wingarc.com/product/usecase/222.html)

